

細胞部門

精度管理事業委員

今井 律子

東海市民病院

TEL 0562-33-5500

実務委員

佐藤 茂 名古屋市立大学病院

細胞検査の精度管理調査

はじめに：平成 10 年度愛臨技精度管理事業として細胞検査研究班では「カラーコピー」を用いてフォトサーベイを行った。出題分野と数は婦人科、呼吸器、泌尿器等日常業務でよく扱う分野から 4 題、穿刺細胞診（乳腺、耳下腺）2 題、捺印細胞診 2 題の合計 8 題である。以下にその内容と解答、解説を示す。

細胞検査フォトサーベイ

設問は 8 問、各設問に 2 枚のフォトがあります。

各設問について選択肢の中から最も適切と思われるものを 1 つ選んで回答用紙の番号に○印を付けて下さい。

設問 1： 36 才、女性。検体：子宮頸部擦過

- ①扁平上皮化生 ② 非角化型扁平上皮癌 ③ 子宮頸内膜腺癌
④上皮内癌 ⑤ 高度異形成

設問 2： 56 才、女性。検体：子宮頸部擦過

- ①子宮頸部結核 ②濾胞性頸管炎 ③上皮内癌
④小細胞癌 ⑤子宮体内膜腺癌

設問 3： 83 才、男性。検体：経気管支針穿刺

- ①扁平上皮癌 ②腺様嚢胞癌 ③粘表皮癌
④腺癌(胃癌転移) ⑤カルチノイド

設問 4： 50 才、男性。検体：自然尿

- ①移行上皮癌(G 1) ② 移行上皮癌(G 2) ③移行上皮癌(G 3)
④良性移行上皮 ⑤腺癌

設問 5： 54 才、女性。検体：顎下部腫瘍穿刺

- ①単一型腺腫 ②多形腺腫 ③ワルチン腫瘍
④腺癌 ⑤粘表皮癌

設問 6： 44 才、女性。検体：左乳房腫瘍穿刺

- ①脂肪腫 ②脂肪壊死 ③シリコン
④結核 ⑤悪性葉状腫瘍

設問 7： 40 才、男性。検体：脳腫瘍圧挫

- ①髄膜腫 ②神経鞘腫 ③神経膠腫
④神経芽腫 ⑤頭蓋咽頭腫

設問 8： 55 才、男性。検体：胃生検スタンプ

- ①異型腺上皮(腺腫) ②平滑筋腫 ③扁平上皮癌
④平滑筋肉腫(低悪性度) ⑤異所性腺組織

細胞検査フォトサーベイの解答、解説

設問 1 ⑤高度異形成

傍基底型の類円形細胞が弧在性に認められる。高度異形成か上皮内癌の鑑別が必要とされる。細胞質には厚味があり、細胞質の角化がうかがえる。N/C 比は 50%～ 80% と高いが、上皮内癌程ではない。核縁のしわ、切れ込み、核クロマチンの濃染の程度から高度異形成が最も適切と考える。

設問 2 ②濾胞性頸管炎

大中小のリンパ球が多数認められる。中央には貪食細胞も認め、慢性炎症の所見を呈している。設問の選択肢では④小細胞癌との鑑別が必要である。核クロマチンが顆粒状であること、濃染しないことから鑑別できる。尚、結核を示唆する多核巨細胞、類上皮細胞、壊死物質等は認められない。

設問 3 ⑤カルチノイド

1、細胞が弧在性に認められる。2、N/C 比はそれ程高くない。3、ほぼ均一大の細胞である。以上よりカルチノイドが最も考えやすい。

設問 4 ②移行上皮癌 (G2)

赤血球を参考にすると設問の細胞は移行上皮癌 G1 の核 (平均 $7.9\mu \times 6.4\mu$) に比してかなり大きいことがわかる。核の大小不同、核クロマチンの濃染。核小体の肥大等が認められる。これらの核

異型の程度は移行上皮癌G 1よりはるかに強いが、G 3とするには多形性に乏しい。

設問 5 ①単一型腺腫

核の大きさは均一大でよくそろっている細胞集団である。核の重積性はあるが密度は高くない。核縁は平滑で核クロマチンは濃染していない。癌とするには構造異型、細胞異型共に弱い。多形腺腫における非上皮性成分、ワルチン腫瘍におけるリンパ球の背景はなく、これらは否定される。

設問 6 ③シリコン

大小の空胞、炎症細胞、多核組織球を認める。大小の空胞は脂肪細胞とするには大小不同がありすぎる。これらの空胞には細胞膜や核が認められない。従ってこれらの空胞は脂肪細胞ではない。脂肪織炎および脂肪壊死に比して炎症細胞の数が少ない。結核を示唆するラングハンス型巨細胞、類上皮細胞、リンパ球等は認められない。以上よりシリコン肉芽腫が最も適切である。

設問 7 ①髄膜腫

同心円状の渦巻き配列を含んだ細胞集団である。この渦巻きの部分に石灰化もみられ、典型的な髄膜腫の所見である。

設問 8 ④平滑筋肉腫（低悪性度）

大小不同、紡錘形から円形まで多様な形の核を有する細胞が散在性に認められる。細胞質は淡く、細胞の結合性はみられない。従って非上皮性の細胞である。細長い核の末端は丸みを帯びて（根棒状の核）平滑筋由来であることを示している。核クロマチンは繊細で濃染し、核小体は複数個認められる。円形核を有する類上皮様の細胞も混在することから通常の平滑筋肉腫とするより低悪性度の平滑筋肉腫が最も考えられる。

まとめ

1、サーベイ回収結果について(表 1 参照)

- ・ 59 施設に配布して 57 施設から回答があった。
- ・ 設問 1、2、3、4 は日常業務でよく経験される分野の症例であり正解率は良好であった。
- ・ 設問 5、6 の成績がやや悪かった。設問 5 は唾液腺に発生する腫瘍の組織型がよく理解されていなかったこと、腺癌の判定基準に差があることなどが考えられる。設問 6 では豊胸のためにシリコンを注入した結果として起こる異物肉芽性の組織像の理解が不足しているものと思われた。(尚、選択肢「シリコン」は診断名ではないので「シリコン肉芽腫」とすべきであった。お詫びして、訂正します。)
- ・ 設問 7、8 は比較的特徴的な細胞所見を示す症例であり正解率は良好であった。

2、参加施設の細胞検査士（C T）と正解数（グラフ 1 参照）

- ・ C T 数が多いほど正解数が多い傾向を示した。

3、今回の「カラーコピー」によるフォトサーベイは比較的簡便にでき、写真の質も良好であり、今後も十分利用できる精度管理方法と考えられた。回答施設数も多く、正解率も満足でき、会員の関心の高さが伺えた。

フォトサーベイ参考資料：水口國雄監修 実践細胞診カラー図鑑 HBJ出版局 1994

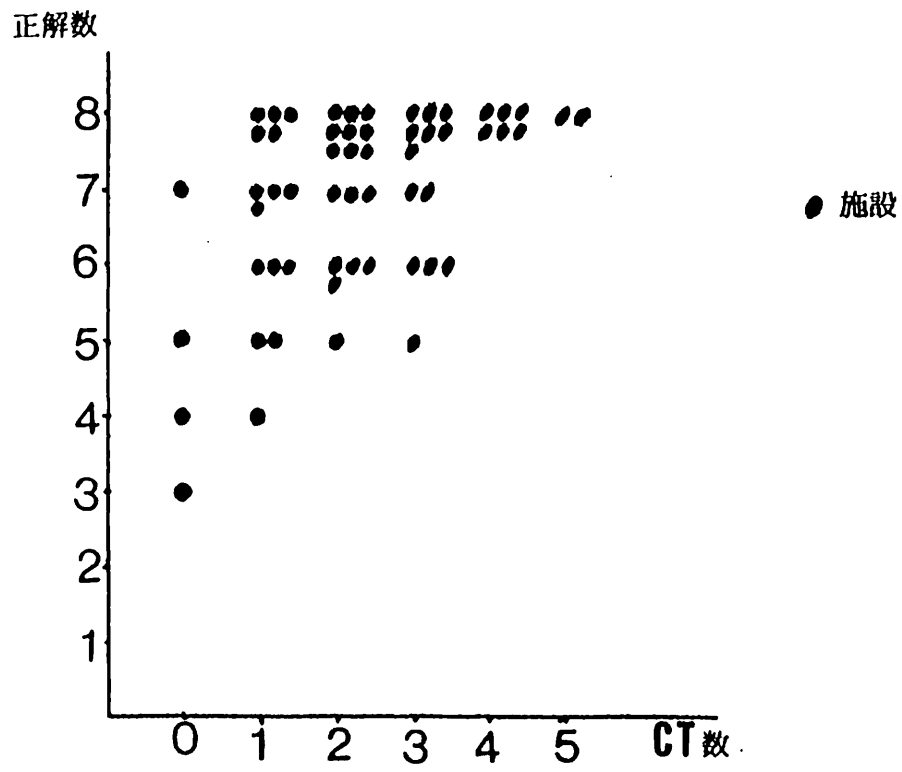
表1、サーベイ回収結果 (回答施設数 57)

選択肢	①	②	③	④	⑤	正解 (正解率%)
設問 1	3	1		5	48	⑤ (84.2)
設問 2		56	1			② (98.2)
設問 3			1	2	54	⑤ (94.7)
設問 4	6	51				② (89.5)
設問 5	38	7	1	9	2	① (66.7)
設問 6	1	13	(1)* 39	3		③ (68.4)
設問 7	55		1		1	① (96.5)
設問 8		2		55		④ (96.5)

表の数字は回答施設数

*：設問6について選択肢②、③の複数回答

グラフ 1 参加施設の細胞検査士(C T)と正解数



細胞検査フォトサーベイ

